

令和3年度 天童市立高揃小学校だより

天のぞらみずの里
高揃 高揃

ましみずの里



令和4年度 第7号 令和4年9月7日

校長 樋口良彦

〒994-0068 天童市大字高揃北 239 番地

TEL023-655-2051 Fax023-655-7650



学校教育目標 「自ら学び、ともに伸びる 一夢に向かう くらしづくりー」

めざす子供像 自ら考え表現し合う子、自ら開きわかり合う子、自ら挑み高め合う子

特集 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果と 今後の指導について

「全国学力・学習状況調査」は、児童生徒の学力や学習状況を全国的に調査し、各学校における教育指導の充実や児童の学習状況の改善を図ることなどを目的に毎年実施されています。今年、4月19日（火）に実施されました。調査対象の6年生は、「教科に関する調査（国語・算数・理科の調査問題）」に臨むとともに、学校生活や地域活動等についての「質問紙調査」に回答しました。

この度、結果が学校に届きましたので、皆様に今後の指導対応を含めてご報告いたします。なお、6年生には、個人の調査結果も併せて本日お届けいたします。

I 「教科に関する調査」について

1 問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力・判断力・表現力等〕の内容のうち、小学5年生までの履修内容。

2 本校の結果（全国比）と問題別の状況（○：全国比約5%以上高い ●：全国比約5%以上低い）

□ 国語：〔全国平均正答率 65.6〕を上回る

- 文章に対する意見や感想を述べあい、自分の文章のよさを見つける。
- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。
- 学年別漢字配当表に示される漢字を文の中で正しく使う。
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。

□ 算数：〔全国平均正答率 63.2〕を上回る

- 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。
- 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。
- 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。
- 示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察できる。
- 示された作図手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形と判断できる。
- 正三角形の意味や性質を基に、角の大きさに着目し、その構成の仕方について記述できる。
- 数量が変わっても、割合は変わらないことを理解している。

□ 理科：〔全国平均正答率 63.3〕とほぼ同等

- 水は水蒸気になっても空気中に含まれることを理解している。
- 自然の事物等から得た情報を、他者の気付きの視点で分析・解釈し、自分の考えを記述できる。
- 実験器具について理解している。
- 日光は直進することを理解している。
- 観察で得た結果を他者の気付きの視点で分析・解釈し、自分の考えをもつことができる。

3 分析と今後の対応

- (1) 正答率が十分でなかった設問や関係する指導事項等については、授業や家庭学習で取り上げ、理解と定着を再指導します。
- (2) 明らかになった課題について全職員で共有に、授業等において意識して指導します。

Ⅱ 「質問紙調査」について

1 調査の内容

学習意欲・方法・環境、生活の諸側面（挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感等、ICTを活用した学習状況、授業改善に関する取組状況、学習への関心や授業の理解度等）について。

2 本校の結果 「している・そうだ、どちらかといえばしている・そうだ」と回答した児童の割合の全国比 (○：全国比5%以上高い ●：全国比5%以上低い)

□ 授業への取組、学習の理解度や興味関心 等

- 先生は、あなたの良いところを認めてくれる。
- 国語の勉強が好きである。
- 理科の勉強は大切だと思う。
- 将来、理科や科学技術に関係する諸企業に就きたい。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- 授業中自分で調べる場面でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使っている。
- 学級で友達と意見交換する場面でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使っている。
- 考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使っている。
- 学校の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役に立つと思う。
- 5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた。
- 総合的な学習の時間では、課題を立てて整理、発表するなどの活動に取り組んだ。
- 学級活動における話し合いを生かして、今自分が努力すべきことに取り組んでいる。
- 算数の授業内容はよくわかる。
- 算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろんな方法を考える。
- 理科の授業内容がよくわかる。
- 理科の授業で、観察や実験の結果からどのようなことがわかったか考えている。
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える。
- 5年までの授業で自分が発表する場面では、資料や話の組み立てを工夫して発表してきた。
- 普段（月～金）の日に、2時間以上勉強している。

□ 基本的な生活習慣、挑戦心・達成感・規範意識、地域や社会に関わる活動状況 等

- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束を守っている。
- 地域の大人に授業や放課後などで勉強を教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。

3 分析と今後の対応

- (1) 児童には「できるようにになりたい」「今よりもっと高まりたい」というまっすぐな願いがあり、それが「勉強は好き・大切だ」という思いにもつながっているようです。一方、正誤がはっきりする算数や理科では、そうした強い願いの裏返しなのか、うまくできていない自分への厳しい評価ともなっているようです。
- (2) 児童にとっては、タブレットを使った学習や学校生活が日常となりつつあります。今後は、タブレットの特徴を生かしながら、児童の「思考力・判断・表現力」がますます高まる学習活動となるよう、研修等で職員の指導力向上を図って参ります。
- (3) 児童の基礎学力を支える家庭学習の量と質について、取り組み状況や児童の意思等を確認しながら充実を図ります。また、児童の興味・関心に基づく発展的な課題への取り組みを促すとともに、ICT機器（タブレット等）を使った多様な学び方等を児童に紹介するなどして、児童個々の強みが更に伸長するよう指導して参ります。